

受 験 上 の 注 意

平成 26 年度大学入試センター試験を受験するに当たっては、この「受験上の注意」及び「受験案内」をよく読んでください。

1 試験実施期日等

日 程	出 題 教 科 ・ 科 目		受験者入室	試験開始	試験終了
平成 26 年 1 月 18 日 (土)	地理歴史 公 民	「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理, 政治・経済」	2科目登録者		
			9:05まで	9:30	11:40
			1科目登録者		
			10:15 まで	10:40	11:40
	国 語	「国語」	12:45まで	13:00	14:20
平成 26 年 1 月 19 日 (日)	外国語	【筆記】 「英語」「ドイツ語」「フランス語」 「中国語」「韓国語」	14:55まで	15:10	16:30
		【リスニング】 「英語」	17:05まで	17:10	18:10
	平成 26 年 1 月 19 日 (日)	理 科	「理科総合A」「理科総合B」 「物理 I」「化学 I」 「生物 I」「地学 I」	2科目登録者	
9:05まで				9:30	11:40
1科目登録者					
10:15 まで		10:40	11:40		
数学①	「数学 I」「数学 I・数学A」	12:45まで	13:00	14:00	
数学②	「数学 II」「数学 II・数学B」 「工業数理基礎」「簿記・会計」 「情報関係基礎」	14:35まで	14:50	15:50	

(注 1) 国語, 理科及び外国語(「英語」を除く。)は, 各教科について 1 試験時間とし, 地理歴史及び公民については, 合わせて 1 試験時間とします。数学は, ①及び②の出題科目のグループごとに, 外国語「英語」は, 筆記とリスニングに試験時間を分けます。

(注 2) 「地理歴史, 公民」又は「理科」の試験時間において「2 科目受験する」と登録した場合は, 試験当日に 1 科目のみの受験に変更することはできませんので, 遅刻者の試験室への入室限度である 9:50 までに入室しない場合は, 後半の第 2 解答科目を含めて, その試験時間の受験は一切できません。

(注 3) 「地理歴史, 公民」又は「理科」の試験時間において「2 科目受験する」と登録した場合は, 解答順に第 1 解答科目及び第 2 解答科目に区分し各 60 分間で解答を行います, 第 1 解答科目及び第 2 解答科目の間に答案回収等を

行うために必要な 10 分を加え、試験時間は 130 分となります。

なお、答案回収等を行うための時間中に問題冊子を開いたり、試験室から退室することはできません。トイレ等を理由にやむを得ず退室する場合でも一時退室を理由に解答開始時刻の繰下げや試験時間の延長は認められません。

(注 4) リスニングは、音声問題を用い 30 分間で解答を行いますが、解答開始前に受験者に配付した IC プレーヤーの作動確認・音量調節を行うための 30 分と合わせて、試験時間は 60 分となります。

2 受験教科・科目

(1) 受験教科・科目に関する以下の事項を受験票に表示していますので、出願時の登録内容と受験票の表示内容に誤りがないかをよく確認してください。

万一、記載事項に誤りがある場合は、受験票を再発行する必要がありますので、直ちに大学入試センター事業第 1 課（裏表紙参照）に電話で問い合わせてください。

また、受験票には試験場に関する事項も表示されていますので確認してください。

事 項	表 示 内 容
受験教科名	受験する教科（登録した教科）には、受験教科名欄に「○」を表示します（「—」を付した教科を受験することはできません。）。 なお、数学は「数学①」「数学②」のグループ別に表示します。
受験科目数 (地理歴史, 公民, 理科のみ)	地理歴史, 公民又は理科を受験する場合は、その教科の備考欄に受験科目数を表示します。例えば、地理歴史, 公民の備考欄に「登録科目数2」という表示があるのは、「地理歴史, 公民の中から2科目を受験する」という意味です。
別冊子試験問題	「数学②」又は「外国語」を受験する者で、別冊子試験問題の配付を希望する場合のみ、備考欄に「別冊子配付あり」と表示します。

(2) 試験当日は、出願時に登録し、受験票の受験教科名欄に○印が記載された教科以外を受験することはできません。

万一登録していない教科を受験しても、その教科は採点されません。

また、「地理歴史, 公民」又は「理科」を受験する場合は、受験票に記載された「登録科目数」を変更することはできません。

例えば、受験票に「登録科目数 2」と記載されている場合、試験当日に、1 科目のみの受験に変更する（1 科目だけ受験を取りやめる）ことはできません。2 科目受験すると登録した場合、2 科目分を採点（前半の 60 分を第 1 解答科目、後半の 60 分を第 2 解答科目として採点）します。

同様に、受験票に「登録科目数 1」と記載されている場合、試験当日に 2 科目の受験に変更することはできませんので、注意してください。

(3) 「地理歴史, 公民」又は「理科」で「2 科目受験する」と登録した場合、各志望大学の募集要項で、第 1 解答科目と第 2 解答科目の取扱いについてよく確認の上、第 1 解答科目と第 2 解答科目の解答順を決定してください。

(4) 公民の出題科目の「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」については、科目名が似ていますので、これらの科目を受験する場合は、解答科目欄へのマークなど、解答する科目に間違いがないか十分確認してください。

(5) 外国語において「英語」を選択する受験者は、原則として、筆記とリスニングの双方を受験してください。

なお、「英語」以外の外国語の筆記を受験した場合、リスニングを受験することはできません。

- (6) 数学については、試験時間を「数学①」と「数学②」のグループに分けて実施します。
数学を受験すると登録した場合は、「数学①」のみの受験又は「数学②」のみの受験も可能です（受験票の受験教科名欄には「数学①」と「数学②」の両方に「○」を表示しています。）。
- (7) 出願時に別冊子試験問題（「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」「工業数理基礎」「簿記・会計」又は「情報関係基礎」）の配付を希望した者については、受験票に「別冊子配付あり」と表示され、試験当日、別冊子が配付されます。
なお、出願時に別冊子試験問題の配付を希望しなかった場合は、試験当日に申し出ても、これらの科目を受験することはできません。

3 受験票の取扱い

- (1) 受験票及び写真票の写真欄には、**同一の写真**（写真の裏に氏名を記入すること。）を**はがれないようにしっかりと**はり付けておいてください。
写真は、縦 4 cm・横 3 cm の大きさに試験日前 3 か月以内に撮影した上半身無帽のものとし、白黒・カラーは問いません。画像が鮮明であれば、スピード写真やデジタルカメラで撮影した写真でもかまいません。
なお、試験時間中に眼鏡をかける者は、眼鏡をかけて撮影してください。
- (2) 受験票及び写真票の自署欄には、あらかじめ**受験者本人**が黒のボールペンで氏名を記入しておいてください。この署名は、答案の署名と照合することがあります。
- (3) 成績請求票、成績通知変更届は、受験票、写真票とあらかじめ切り離して、大切に保管しておいてください。
- (4) 受験票は、各大学の個別学力検査等及び入学手続の際にも必要となりますので、大学入試センター試験終了後も大切に保管しておいてください。
また、大学入試センター試験の成績については、過去 3 年前のものまで、大学の判断で当該年度の入学者選抜に利用できます。このような選抜を行う大学へ出願する際には、該当する年度の大学入試センター試験受験票が必要となります。

4 試験当日の注意事項

- (1) **受験票及び写真票は、必ず持参してください。試験当日は常に受験票を携帯する必要があります。**
試験当日に、受験票、写真票を紛失、又は持参し忘れた場合には、試験場本部に行き、仮受験票、仮写真票の交付を受けてください（試験場本部の場所は、当日、試験場で確認してください。）。
ただし、受験者入室時刻までに試験場本部に行く時間がない場合は、試験室にいる試験監督者に申し出て、その指示に従ってください。
- (2) 自分が受験する教科・科目の「**受験者入室**」時刻までに、指定された試験場の試験室に入室してください。試験室の位置等は、試験場入口の掲示又は印刷物により確認してください。**指定された試験場以外では、いかなる理由があっても受験はできません。**
なお、受験者の付添者は、試験場構内に入構できないことがありますので、受験票の「問い合わせ大学」欄に記載された大学にあらかじめ確認してください。
- (3) 自分が受験しない試験時間も、他の試験室では試験を実施していますので、試験場内では、騒いだり、大声を出したりしないでください。

- (4) 受験教科として登録していない教科の試験時間は、試験室に入室できません。万一、登録していない教科を受験しても、その教科は採点されません。
- (5) 試験室では、机の上にはられている「受験番号票」（17 ページ参照）に表示されている受験番号が受験票のものと同一であることを確認して、着席してください。
- (6) 試験開始時刻に遅刻した場合は、**試験開始時刻後 20 分以内の遅刻に限り、受験を認めます。**
ただし、リスニングは、試験開始時刻（17：10）までに入室していない場合は、受験することができません。
また、「地理歴史、公民」又は「理科」の試験時間において「2 科目受験する」と登録した場合は、遅刻者の試験室への入室限度である 9：50 までに入室しないと、後半の第 2 解答科目を含めて、その試験時間は一切受験することができません（試験当日に 1 科目のみの受験に変更することはできません）。
遅刻の理由が事故等で、追試験の受験を希望する場合は、係員に申し出てください。
なお、試験当日、交通機関の事故又は災害等が発生した場合は、試験開始時刻を繰り下げることがあります。
- (7) 受験票に「上履き持参」と表示してある場合は、「上履き」と「下履きを入れる袋」を持参してください。
- (8) 自動車、バイク等での試験場構内への乗り入れを禁止します。
- (9) インフルエンザ等の感染症にかかり治癒していない者は、他の受験者に感染するおそれがあるため受験はできません。追試験の受験を申請してください。（11 ページ参照）

5 試験時間中の注意事項

- (1) 所持品の取扱い
- ① 「受験票」「写真票（最初に受験する時間の試験時間中に回収します。）」は、必ず机の上に置いてください。
- ② 「受験票」「写真票」のほかに試験時間中、机の上に置けるものは、**黒鉛筆（H、F、HB に限る。和歌・格言等が印刷されているものは不可。）、シャープペンシル（メモや計算に使用する場合、黒い芯に限る。）、プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のもの・ナイフ類を除く。）、時計（辞書や電卓等の機能があるもの、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものを除く。）、眼鏡、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの。）、目薬**です。
これ以外の所持品を使用又は置いている場合には、解答を一時中断させて、試験終了まで預かることがあります。
- ③ **携帯電話、スマートフォン等の電子機器類**は試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っておいてください。試験時間中に、これらをかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っている**と不正行為となることがあります。**
なお、試験時間中にかばん等の中で携帯電話の着信音やマナーモードの振動音などが発生した場合には、監督者が本人の了解を得ずにかばん等を試験室外に持ち出し、試験場本部で当該試験時間終了まで保管します。

- ④ 机の上に置けるものや携帯電話、スマートフォン等の電子機器類の取扱いについては、机の上にはられている「受験番号票」（17 ページ参照）にも表示しています。試験当日は、この表示や監督者の指示に従ってください。
- ⑤ 「耳せん」は、監督者の指示等が聞き取れないことがありますので使用できません。
- ⑥ 試験室内で、コート類を着用しても差し支えありません。
英文字や地図等がプリントされている服等は着用しないでください。着用している場合には、脱いでもらうことがあります。
- ⑦ 「座布団」「ひざ掛け」の使用を希望する者は、監督者に申し出て許可を得てから使用してください。

(2) 不正行為

- ① 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を命じられ、それ以後の受験はできなくなります。また、受験した大学入試センター試験のすべての教科・科目の成績を無効とします。

- ア 志願票、受験票・写真票、解答用紙へ故意に虚偽の記入（受験票・写真票に本人以外の写真をはることや解答用紙に本人以外の名前・受験番号を記入するなど。）をすること。
- イ カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど。）をすること。
- ウ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- エ 配付された問題冊子を、その試験時間が終了する前に試験室から持ち出すこと。
- オ 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- カ 「解答はじめ。」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- キ 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、電子辞書、IC レコーダー等の電子機器類を使用すること。
- ク 試験時間中に、定規、コンパス、電卓等の補助具を使用すること。
- ケ 「解答やめ。鉛筆や消しゴムを置いて問題冊子を閉じてください。」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。

- ② 上記①以外にも、次のことをすると不正行為となる場合があります。指示等に従わず、不正行為と認定された場合の取扱いは、上記①と同様です。

- ア 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン等の電子機器類や定規、コンパス、電卓等の補助具をかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っていること。
- イ 試験時間中に携帯電話や時計等の音（着信・アラーム・振動音など。）を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
- ウ 試験監督者の指示に従わず、IC プレーヤーを操作したり IC プレーヤーの故障について虚偽の申出をすること。
- エ IC プレーヤー・音声メモリーを試験室から持ち帰ること。
- オ 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申出をすること。
- カ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- キ 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- ク その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

(3) 解答上の注意事項

- ① 受験者入室後、試験開始までの間に受験上の説明、問題冊子・解答用紙の配付等が行われます。なお、「地理歴史、公民」又は「理科」の試験時間に2科目を受験する場合は、第1解答科目と第2解答科目の解答開始前にそれぞれ1枚ずつ解答用紙の配付を行います。第1解答科目、第2解答科目ともに1科目60分で解答してください。その他試験場における試験監督者等の指示に従って解答してください。試験監督者等の指示に従わない場合は、不正行為となることがあります。また、地理歴史及び公民については、全ての受験者にパッケージ化された「地理歴史と公民の2冊」が配付されます。解答に使用しない冊子についても、必ず机の上に置いておいてください。万一かばん等にしまうと、不正行為と判断されることがありますので十分注意してください。
- ② 解答には、必ず黒鉛筆（H、F、HBに限る。）及びプラスチック製の消しゴムを使用してください。黒鉛筆以外のもの（シャープペンシル等）を使用してマークした場合には、解答が読み取れないことがありますので、使用しないでください。
- ③ 「定規（定規の機能を備えた鉛筆等を含む。）」「コンパス」「電卓」「そろばん」「グラフ用紙」等の補助具や、「電子辞書」「携帯電話」「スマートフォン」「ICレコーダー」等の電子機器類は使用できません。試験時間中に、これらを使用すると不正行為となります。
- ④ 解答は、解答用紙の「マーク例」に従って、正しくマークしてください。マークが薄い場合、一部分しかマークしていない場合、訂正箇所を消しゴムできれいに消していない（消し跡が残っている）場合は、解答が正しく読み取れないことがあります。

(4) 受験番号・解答科目等欄記入時の注意事項（18ページ参照）

- ① 解答用紙の所定欄に受験番号、氏名、フリガナ、試験場コード、解答科目等を監督者の指示に従い、正しく記入、マークしてください。

受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。解答用紙の受験番号のマークに当たっては、次のようなマークミスが多いので、注意してください。

 - ア 間違った数字にマーク。（例えば1を0にマーク、2を1にマーク）
 - イ 隣り合う数字を逆の順序でマーク。（例えば1234を1324のように入れ替えてマーク）
 - ウ 英字のマークがない。
 - エ 数字・英字のすべてにマークがない。
- ② 国語とリスニング以外の解答用紙には解答科目を選択してマークするための解答科目欄がありますので、1枚の解答用紙の解答科目欄には、解答する科目を1つだけマークしてください。
- ③ 解答用紙の受験番号欄の右横の英字は、マークした英字が何であったかを、受験者がマーク後も確認できるように記載されているものです。この英字にマークしたり、○で囲むことはしないでください。
- ④ 解答用紙の受験番号欄、氏名等欄及び解答科目欄の右下のチェック欄は、受験番号欄等に正しく記入、マークしているかを確認するためのものです。監督者の指示に従い正しくマークされているか確認の上、チェックをしてください。
- ⑤ 解答科目がマークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、解答科目が特定できないため、0点となります。

ただし、外国語又は数学②において別冊子試験問題の配付を希望しない場合で、解答科目が特定できる場合は、以下のとおり取り扱います。

ア 外国語・・・ 別冊子試験問題が配付されていないため、「英語」として採点します。

イ 数学②・・・ 「数学Ⅱ」又は「数学Ⅱ・数学B」のいずれか1科目と別冊子試験問題の科目をマークしている場合は、別冊子試験問題が配付されていないので、マークしている「数学Ⅱ」又は「数学Ⅱ・数学B」で採点します。

(注) 追試験において別冊子試験問題の科目の受験を申請した場合は、申請した科目で採点します。

⑥ 「地理歴史，公民」又は「理科」の2科目受験者が，選択できない科目の組合せをマークしている場合は，第1解答科目は選択した科目を通常どおり採点し，第2解答科目は0点（「科目不明」）として取り扱います。

【参考】

選択方法	選択例	採点（成績提供）方法
同じ科目を選択した場合	第1解答科目：「物理Ⅰ」 第2解答科目：「物理Ⅰ」を選択	第1解答科目：通常どおり採点 第2解答科目：0点（科目不明）
地理歴史又は公民で「同一名称を含む組合せ」の科目を選択した場合（→注）	第1解答科目：「世界史A」 第2解答科目：「世界史B」を選択	第1解答科目：通常どおり採点 第2解答科目：0点（科目不明）

(注) 地理歴史及び公民において選択できない「同一名称を含む組合せ」は以下のとおりです。

「世界史A」と「世界史B」	「日本史A」と「日本史B」	「地理A」と「地理B」
「倫理」と「倫理，政治・経済」	「政治・経済」と「倫理，政治・経済」	

(5) その他の注意事項

① 試験室に入室してから試験終了までは，「地理歴史，公民」又は「理科」の2科目受験者の試験時間における第1解答科目と第2解答科目の間の10分間を含め，退室できません。

試験時間中の発病又はトイレ等により，やむを得ず退室を希望する場合には，手を挙げて監督者の指示に従ってください。

ただし，一時退室が認められた場合でも，休養室などでの受験はできません。また，一時退室した分の解答開始時刻の繰下げや試験時間の延長も認められません。

② 配付された問題冊子は，その試験時間が終了するまで，試験室から持ち出すことはできません。持ち出した場合は，不正行為となります。

③ 試験時間中に監督者が写真票と受験者の顔の確認を行います。「マスク」や「帽子」を着用している場合，確認のため，一時的に外すよう監督者が指示することがあります。

④ 試験時間中に日常的な生活騒音等（監督者の巡回による足音・監督業務上必要な打合せなど，航空機・自動車・風雨・空調の音など，周囲の受験者の咳・くしゃみ・鼻をすする音など，携帯電話や時計等の短時間の鳴動，リスニングのイヤホンやヘッドホンからの音もれ，周囲の建物のチャイム音など）が発生した場合でも救済措置は行いません。

6 受験上の配慮の通知等

受験に際して受験上の配慮を申請した者には，次の書類を別途送付します。

① 「受験上の配慮事項決定通知書」

（出願後の不慮の事故等による受験上の配慮については，受験案内の34ページを参照してください。）

② 「受験上の注意」（受験上の配慮の内容に応じて，点字問題受験者用，障害者等受験者用，試験時間延長（1.3倍）受験者用又は代筆解答受験者用を送付します。）

7 リスニング

(1) リスニングの進行

リスニングでは、試験時間 60 分の中で、個々の受験者が IC プレーヤーを操作し、解答開始前に IC プレーヤーの作動確認・音量調節を行った後、30 分間で解答します。受験案内の 36, 37 ページにリスニングの進行について記載していますので、確認してください。また、大学入試センターのホームページで、IC プレーヤーの操作体験をすることができますので、事前に操作体験をしておいてください。

(2) IC プレーヤーの操作準備

IC プレーヤーの操作準備は、解答用紙裏面の表示（10 ページ参照）に従い、①～⑤を受験者が各自で行います。⑥～⑧は、それぞれ監督者の指示があるまで行わないでください。機器の操作方法については、受験案内の 39 ページを参照するか、大学入試センターのホームページにある「IC プレーヤー操作ガイド」を利用し、事前に確認してください。

(3) 解答上の注意事項

- ① 問題音声は設問ごとに 2 回流れます。1 回目の音声と 2 回目の音声の流れた後には、それぞれ問題冊子を読んだり、解答するために音声の流れない時間があります。音声の流れていなくても、IC プレーヤーの上部にある「作動中ランプ」が光っていれば故障ではありません。



- ② 解答は設問ごとに解答用紙にマークします。解答を問題冊子に記入しておいて、解答時間の途中や最後にまとめてマークしてはいけません（まとめてマークする時間は用意されていません。）。

なお、質問文と選択肢は、すべて問題冊子に印刷されています。

(4) 試験時間中の注意事項

- ① リスニングは、受験者が個々に音声を聞き取りながら解答する試験です。他の受験者の聞き取りに支障をきたす不必要な音をたてることのないよう注意してください。
- ② IC プレーヤーには、「電源」「確認」「再生」の 3 つのボタンがあります。これらの 3 つのボタンは単にひと押ししただけでは、作動しません。ランプが光るまで長く押し続けてください。
- ③ 確認ボタンを押した後に、IC プレーヤーに一度挿入された音声メモリーに触れると、音声メモリーが飛び出し、再度挿入しても音声を聞くことはできません。正しく挿入した後は、音声メモリーには触れないでください。
- ④ IC プレーヤーのボタンを長く押し続けてもランプが光らない、音声流れない、音声が聞き取れない、問題冊子の印刷不鮮明で解答に支障がある場合は、ためらわずに黙って手を高く挙げて、監督者に知らせてください。試験が終わってから、音声の不具合を申し出ることはできません。

⑤ 解答時間中の質問は、一切受け付けません。

⑥ 体調不良やトイレ等やむを得ない場合には、一時退室を認めることがあります。一時退室が認められた場合でも、問題音声を停止することはできません。また、一時退室した分の試験時間の延長も認められません。

(5) 解答時間中の事故等と再開テスト

① 解答時間中に、監督者に申し出なければならない事由が発生した場合には、黙って手を高く挙げて知らせてください。その後、監督者から所定の用紙が受験者に手渡されます。監督者とのやりとりは、周囲の受験者の解答の妨げにならないよう、声を出さずにこの用紙を使用して筆談で行います。

② 解答時間中に IC プレーヤーの不具合や、問題冊子の印刷不鮮明等があった場合は、監督者の指示で試験を中断することがあります。中断を指示された受験者に対しては、試験終了後に再開テストを実施します。

③ 再開テストでは、新しいICプレーヤーにより同じ試験問題を使って、中断した設問からテストを再開します。

④ 体調不良等により退室が必要となる受験者がいる場合は、監督者から周囲の受験者に対し、試験の中断を指示することがありますので、その際は、監督者の指示に従ってください。中断を指示された受験者は再開テストを受験することができますので、試験終了まで静かに待機しててください。

⑤ 不具合のあった IC プレーヤー一式は、回収し、原因を調査します。調査の結果、虚偽の申出をしたことが判明した場合は不正行為となることがあります。

(6) 試験終了後の IC プレーヤー等の取扱い

ICプレーヤー及び音声メモリーは、試験終了後回収しますので必ず返却してください。ICプレーヤー・音声メモリーを試験室から持ち帰ると、不正行為となることがあります。

ただし、問題冊子、イヤホンは持ち帰ってください。

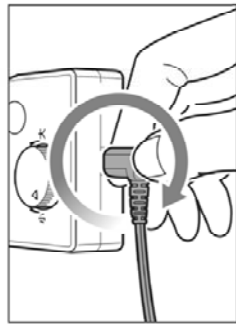
なお、問題音声は、試験終了後に大学入試センターのホームページからダウンロードすることができます。

裏面

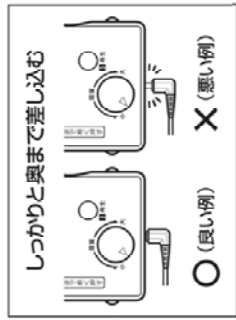
<ICプレーヤーの準備方法>

①～⑤を各自で行ってください。わからないことがあったら、手を高く挙げて知らせてください。⑥～⑧は指示があるまで行わないでください。

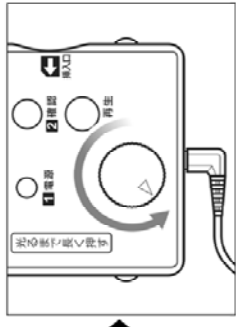
① ICプレーヤー、イヤホンを袋から取り出し、イヤホンのプラグをゆっくりと一回転させる。



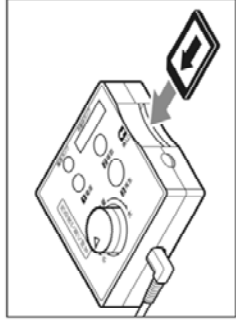
② 念のため、イヤホンをもう一度押し込み、奥までしっかりと差し込まれていることを確認した後、イヤホンの「コードどめ」をほどく。



③ 音量つまみを左方向に回して、最小になるようにする。



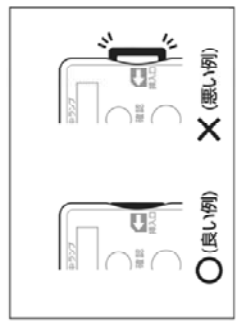
④ 音声メモリーを袋から取り出し、矢印の面を表にして、奥に突き当たるまでしっかりと差し込む。



⑤ 音声メモリーが正しく差し込まれているか確認する。

(注1) 正しく差し込まれていることを確認した後は音声メモリーには触らないこと。

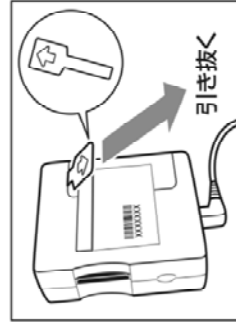
(注2) 次の指示があるまで⑥には進まないこと。



⑥ ICプレーヤー裏側の「絶縁シート」を引き抜き、必要ないものは、ICプレーヤーが入っていた袋の中に入れる。

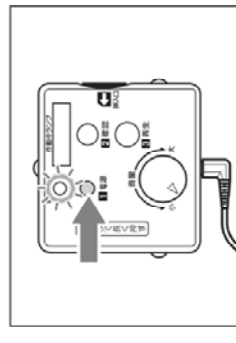
(注1) 引き抜くときに表面のボタンを押さないように注意すること。

(注2) 次の指示があるまで⑦には進まないこと。

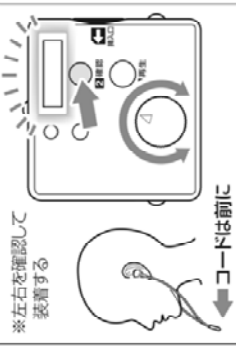


⑦ ①の「電源ボタン」を「電源ランプ」が光るまで長く押し続ける。

(注) 次の指示があるまで⑧には進まないこと。



⑧ イヤホンの左右を確認してから、耳に付けて、②の「確認ボタン」を、「作動中ランプ」が光るまで、長く押し続ける。
「作動中ランプ」が光ったら音量つまみを回して聞きやすい音量に調節する。



【⑥～⑧は、それぞれ監督者の指示を待つこと】

8 追試験の実施

- (1) 実施期日は、平成26年1月25日（土）、1月26日（日）です。

ただし、再試験をこの期日より後に実施する必要がある場合は、再試験と同一の期日に実施します。そのときは、追試験の受験許可者には別途通知します。

また、この追試験についての再試験及び追試験はありません。

- (2) 追試験場

地 区	試 験 場 名	所 在 地
東 日 本 〔北海道, 東北, 関東甲信越, 静岡県〕	東京芸術大学	〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
西 日 本 〔東海（静岡県を除く。） 北陸, 近畿, 中国, 四国, 九州, 沖縄〕	大阪大学 (吹田キャンパス)	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1

- (3) 追試験の受験申請（申請する場合には、あらかじめ、受験票に記載されている「問い合わせ大学」に電話連絡してください。）

次の①又は②に該当する事由により、本試験の2日間とも受験できないか、どちらか1日を受験できない者は、受験票に記載されている「問い合わせ大学」において、申請受付時間内に限り追試験の受験を申請することができます。申請受付時間経過後は、いかなる理由があっても追試験の受験を申請することはできません。

なお、追試験の受験許可の単位は、2日分の教科・科目又は1日分の教科・科目です。第1日目又は第2日目において、1つの教科・科目でも受験した者は、当該試験日は追試験の対象となりません。

また、第2日目に、第1日目分の追試験の受験を申請することはできません。

- ① 疾病・負傷による場合

申請受付時間	<ul style="list-style-type: none"> ・本試験前日（1月17日） 9:00～17:00 ・第1日目（1月18日） 7:30～18:10 ・第2日目（1月19日） 7:30～15:50
申請方法	<p>ア 本人又は代理人が、受験票に記載されている「問い合わせ大学」に電話連絡した上で、申請受付時間内に「受験票」と「医師の診断書」（治療期間の明記されたもの）を「問い合わせ大学」に持参し、申請してください。 許可された場合は、追試験受験許可書が交付されます。</p> <p>イ 申請受付時間内に「問い合わせ大学」に行けない場合は、疾病・負傷の状況等を、申請受付時間内に受験票に記載の「問い合わせ大学」に電話連絡し、指示を受けてください。</p>

② 試験場に向かう途中の事故又はやむを得ない事由による場合

(事故等が生じた場合は、速やかに受験票に記載の「問い合わせ大学」に電話連絡してください。)

申請受付時間	試験当日，試験場に向かう途中で事故にあった場合又は交通機関の遅延・予定外の運休にあった場合 ⇒ その日の試験終了時刻まで (注)
	やむを得ない事由がある場合 やむを得ない事由の例 (・ 両親又は親族等の危篤，死亡 ・ 自宅の火災) ⇒ ・ 本試験前日 (1月17日) 9:00~17:00 ・ 第1日目 (1月18日) 7:30~18:10 ・ 第2日目 (1月19日) 7:30~15:50
申請方法	ア 本人又は代理人が，受験票に記載されている「問い合わせ大学」に電話連絡した上で，申請受付時間内に「受験票」と「事故又は事由が確認できる証明書等」を「問い合わせ大学」に持参し，申請してください。 許可された場合は，追試験受験許可書が交付されます。 イ 申請受付時間内に「問い合わせ大学」に行けない場合は，事故等の状況等を，申請受付時間内に受験票に記載の「問い合わせ大学」に電話連絡し，指示を受けてください。

(注) 試験時間の繰り下げを実施した場合や受験上の配慮により試験時間を延長する場合には，当該試験の終了時刻が申請受付の終了時刻となり，通常の終了時刻(第1日目 18:10，第2日目 15:50)とは異なるので注意してください。

(4) 追試験における外国語及び数学②の別冊子試験問題は科目ごとに分かれた冊子になっています。出願時に別冊子の配付を希望した者が，追試験を受験する場合は，**追試験の受験申請時に申請した科目の冊子のみを配付します。**

なお，代理人が追試験の受験申請を行う場合には，あらかじめ志願者本人に追試験における外国語及び数学②の受験科目を確認した上で申請してください。

(5) 追試験の受験を許可された場合，許可された2日分又は1日分の教科・科目については本試験の受験はできません。受験しても無効となります。

(6) 追試験・再試験の正解及び配点については，それぞれの試験時間の終了後に，各試験場において掲示します。

9 試験問題冊子及び解答用紙

- (1) 試験当日、受験者に配付される試験問題冊子の種類は、次表のとおりです。

国語、外国語〔英語(筆記)〕及び外国語〔英語(リスニング)〕以外の冊子は複数の科目が同一の冊子に編集されているので、解答する科目の選択方法を間違えないよう、あらかじめ試験問題冊子の注意事項の例(14, 16 ページ参照)をよく読んでおいてください。

問題冊子の名称	左の冊子に含まれている科目等
地理歴史	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」
公民	「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理, 政治・経済」
国語	「国語」
外国語〔英語(筆記)〕	「英語(筆記)」
外国語(別冊)	「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」
外国語〔英語(リスニング)〕	「英語(リスニング)」
理科	「理科総合A」「理科総合B」 「物理I」「化学I」「生物I」「地学I」
数学①	「数学I」「数学I・数学A」
数学②	「数学II」「数学II・数学B」
数学②(別冊)	「工業数理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」

- (2) 地理歴史及び公民については、全ての受験者にパッケージ化された「地理歴史と公民の2冊」が配付されます。

試験当日は、登録した受験科目数にしたがって、地理歴史と公民を合わせた10科目の中から解答科目を選択することができます。

ただし、「2科目受験する」と登録した場合は、同一名称を含む以下の組合せを選択することはできません。

「世界史A」と「世界史B」	「日本史A」と「日本史B」	「地理A」と「地理B」
「倫理」と「倫理, 政治・経済」	「政治・経済」と「倫理, 政治・経済」	

- (3) 外国語(別冊)及び数学②(別冊)は、出願時に配付を希望しなければ配付されません。
- (4) 解答用紙は、試験時間ごとに1枚(「地理歴史, 公民」又は「理科」の試験時間において2科目を受験する場合は、第1解答科目及び第2解答科目にそれぞれ1枚)配付されるので、選択解答する科目のマークを間違えないよう、あらかじめ解答用紙の様式(15, 17 ページ参照)をよく見ておいてください。

また、数学②の解答用紙では、選択した問題番号に対応した解答欄にマークすることになりますので、間違えないよう十分注意してください。

- (5) 試験問題冊子の注意事項等

14~18 ページに試験問題冊子及び解答用紙の一部、解答用紙の正しい記入例等を示しますので、あらかじめ、よく確認しておいてください。

【地理歴史】

(1) 試験問題冊子の注意事項

【表面】

試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

地理歴史 世界史A 世界史B 日本史A (各科目)
日本史B 地理A 地理B (100点)

注 意 事 項

- 1 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。特に、解答用紙の第1解答科目欄・第2解答科目欄にマークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。
- 2 出題科目、ページ及び選択方法は、下表のとおりです。

出 題 科 目	ペ ー ジ	選 択 方 法
世 界 史 A	～	受験できる科目数は、受験票に記載されているとおりです。 なお、以下の組合せは選択できません。 ・「世界史A」と「世界史B」 ・「日本史A」と「日本史B」 ・「地理A」と「地理B」
世 界 史 B	～	
日 本 史 A	～	
日 本 史 B	～	
地 理 A	～	
地 理 B	～	

- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、10 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

この注意事項は、問題冊子の裏表紙にも続きます。問題冊子を裏返して必ず読みなさい。

【裏面】

- 6 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者がカードを用いて注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。
- 7 2科目受験者の試験の進行方法について(2科目受験者のみ確認)
 - ① この試験は、前半と後半に分けて実施します。
 - ② 前半に解答する科目を「第1解答科目」、後半に解答する科目を「第2解答科目」として取り扱います。解答する科目及び順序は、志望する大学の指定に基づき、各自で決めなさい。
 - ③ 第1解答科目、第2解答科目ともに解答時間は60分です。60分で1科目だけを解答しなさい。
 - ④ 第1解答科目の後に、答案を回収する時間などを設けてありますが、休憩時間ではありませんので、トイレ等で一時退室することはできません。

注) 進行方法が分からない場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 8 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

(2) 解答用紙の様式 (見本) 【2科目受験者の第1解答科目・1科目受験者用共通 (緑色)】

マーク例

良い例	悪い例
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>

① 受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしなさい。

受験番号欄				
千位	百位	十位	一位	英字
-	0	0	0	(A)
(1)	(1)	(1)	(1)	(B)
(2)	(2)	(2)	(2)	(C)
(3)	(3)	(3)	(3)	(H)
(4)	(4)	(4)	(4)	(K)
(5)	(5)	(5)	(5)	(M)
(6)	(6)	(6)	(6)	(R)
(7)	(7)	(7)	(7)	(U)
(8)	(8)	(8)	(8)	(X)
(9)	(9)	(9)	(9)	(Y)
-	-	-	-	(Z)

② 氏名・フリガナ、試験場コードを記入しなさい。

フリガナ													
氏名													
試験場コード	<table border="1"> <tr> <th>十</th> <th>万</th> <th>千</th> <th>百</th> <th>十</th> <th>一</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	十	万	千	百	十	一						
十	万	千	百	十	一								

地理歴史、公民 (第1解答科目) 解答用紙

注意事項

- 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残してはいけません。
- 所定欄以外にはマークしたり、記入したりしてはいけません。
- 汚したり、折りまげたりしてはいけません。

・1科目だけマークしなさい。
・第1解答科目欄が無マーク又は複数マークの場合は、0点となります。

第1解答科目欄									
世界史 A	<input type="radio"/>								
世界史 B	<input type="radio"/>								
日本史 A	<input type="radio"/>								
日本史 B	<input type="radio"/>								
地理 A	<input type="radio"/>								
地理 B	<input type="radio"/>								
現代社会	<input type="radio"/>								
倫理	<input type="radio"/>								
政治・経済	<input type="radio"/>								
倫理、政治・経済	<input type="radio"/>								

1

解答番号	解答欄									解答番号	解答欄									解答番号	解答欄								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		1	2	3	4	5	6	7	8	9		1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	14	0	0	0	4	0	0	0	0	0	27	0	0	0	4	0	0	0	0	0
2	0	0	0	4	0	0	0	0	0	15	0	0	0	4	0	0	0	0	0	28	0	0	0	4	0	0	0	0	0
3	0	0	0	4	0	0	0	0	0	16	0	0	0	4	0	0	0	0	0	29	0	0	0	4	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0																									
5	0	0	0	0																									
6	0	0	0	0																									
7	0	0	0	0																									
8	0	0	0	0																									
9	0	0	0	4	0	0	0	0	0	22	0	0	0	4	0	0	0	0	0	35	0	0	0	4	0	0	0	0	0
10	0	0	0	4	0	0	0	0	0	23	0	0	0	4	0	0	0	0	0	36	0	0	0	4	0	0	0	0	0
11	0	0	0	4	0	0	0	0	0	24	0	0	0	4	0	0	0	0	0	37	0	0	0	4	0	0	0	0	0
12	0	0	0	4	0	0	0	0	0	25	0	0	0	4	0	0	0	0	0	38	0	0	0	4	0	0	0	0	0
13	0	0	0	4	0	0	0	0	0	26	0	0	0	4	0	0	0	0	0	39	0	0	0	4	0	0	0	0	0

【2科目受験者の第2解答科目 (青色)】

マーク例

良い例	悪い例
<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>

① 受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしなさい。

受験番号欄				
千位	百位	十位	一位	英字
-	0	0	0	(A)
(1)	(1)	(1)	(1)	(B)
(2)	(2)	(2)	(2)	(C)
(3)	(3)	(3)	(3)	(H)
(4)	(4)	(4)	(4)	(K)
(5)	(5)	(5)	(5)	(M)
(6)	(6)	(6)	(6)	(R)
(7)	(7)	(7)	(7)	(U)
(8)	(8)	(8)	(8)	(X)
(9)	(9)	(9)	(9)	(Y)
-	-	-	-	(Z)

② 氏名・フリガナ、試験場コードを記入しなさい。

フリガナ													
氏名													
試験場コード	<table border="1"> <tr> <th>十</th> <th>万</th> <th>千</th> <th>百</th> <th>十</th> <th>一</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	十	万	千	百	十	一						
十	万	千	百	十	一								

地理歴史、公民 (第2解答科目) 解答用紙

注意事項

- 第1解答科目で解答した科目は解答できません。
- 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残してはいけません。
- 所定欄以外にはマークしたり、記入したりしてはいけません。
- 汚したり、折りまげたりしてはいけません。

・1科目だけマークしなさい。
・第2解答科目欄が無マーク又は複数マークの場合は、0点となります。

第2解答科目欄									
世界史 A	<input type="radio"/>								
世界史 B	<input type="radio"/>								
日本史 A	<input type="radio"/>								
日本史 B	<input type="radio"/>								
地理 A	<input type="radio"/>								
地理 B	<input type="radio"/>								
現代社会	<input type="radio"/>								
倫理	<input type="radio"/>								
政治・経済	<input type="radio"/>								
倫理、政治・経済	<input type="radio"/>								

2

解答番号	解答欄									解答番号	解答欄									解答番号	解答欄								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		1	2	3	4	5	6	7	8	9		1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	14	0	0	0	4	0	0	0	0	0	27	0	0	0	4	0	0	0	0	0
2	0	0	0	4	0	0	0	0	0	15	0	0	0	4	0	0	0	0	0	28	0	0	0	4	0	0	0	0	0
3	0	0	0	4	0	0	0	0	0	16	0	0	0	4	0	0	0	0	0	29	0	0	0	4	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0																									
5	0	0	0	0																									
6	0	0	0	0																									
7	0	0	0	0																									
8	0	0	0	0																									
9	0	0	0	4	0	0	0	0	0	22	0	0	0	4	0	0	0	0	0	35	0	0	0	4	0	0	0	0	0
10	0	0	0	4	0	0	0	0	0	23	0	0	0	4	0	0	0	0	0	36	0	0	0	4	0	0	0	0	0
11	0	0	0	4	0	0	0	0	0	24	0	0	0	4	0	0	0	0	0	37	0	0	0	4	0	0	0	0	0
12	0	0	0	4	0	0	0	0	0	25	0	0	0	4	0	0	0	0	0	38	0	0	0	4	0	0	0	0	0
13	0	0	0	4	0	0	0	0	0	26	0	0	0	4	0	0	0	0	0	39	0	0	0	4	0	0	0	0	0

【数学②】

(1) 試験問題冊子の注意事項

【表面（裏面は省略）】

試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

数 学 ②〔数学Ⅱ 数学Ⅱ・数学B〕 (100点)
(60分)

工業数理基礎、簿記・会計及び情報関係基礎の問題冊子は、大学入試センター試験の出願時に、それぞれの科目の受験を希望した者に配付します。

I 注 意 事 項

- 1 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。特に、解答用紙の解答科目欄にマークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となることがあります。
- 2 出題科目、ページ及び選択方法は、下表のとおりです。

出 題 科 目	ペ ー ジ	選 択 方 法
数 学 Ⅱ	～	左の2科目のうちから1科目を選択し、 解答しなさい。
数学Ⅱ・数学B	～	

- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 選択問題については、解答する問題を決めたあと、その問題番号の解答欄に解答しなさい。ただし、指定された問題数をこえて解答してはいけません。
- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 6 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者がカードを用いて注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

II 解答上の注意

解答上の注意は、裏表紙に記載してあるので、この問題冊子を裏返して必ず読みなさい。

(2) 「数学Ⅱ・数学B」の試験問題の最初のページ（部分）

数学Ⅱ・数学B

問 題	選 択 方 法
第1問	必 答
第○問	いずれか2問を選択し、 解答しなさい。
第○問	
第○問	

(3) 解答用紙の様式 (見本)

マーク例

① 受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしなさい。

② 氏名・フリガナ、試験場コードを記入しなさい。

解答科目欄

数学Ⅱ 0

数学Ⅰ 0

工業数理 0

簿記会計 0

基情報関係 0

数学② 解答用紙・第1面

注意事項

- 問題番号④⑤⑥の解答欄は、この用紙の第2面にあります。
- 選択問題は、選択した問題番号の解答欄に解答しなさい。ただし、指定された問題数をこえて解答してはいけません。
- 訂正は、消しゴムできれいに消し、消し残しを付してはいけません。
- 所定欄以外にはマークしたり、記入したりしてはいけません。
- 汚したり、折りまげたりしてはいけません。

見本

* 第2面(省略)は、問題番号と解答欄のみです。

* 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしてください。例えば、第3問の **ア** と表示のある問いに対して「1」と解答する場合は、問題番号 **3** の解答記号 **ア** の **①** にマークしてください。答えはマークしたとおりに採点されるので、選択問題については、選択した問題番号の解答欄を間違えないよう十分注意してください。

【受験番号票】

(原寸 100mm×100mm)

受験番号 1001A

1 携帯電話などの取扱い

- ① 携帯電話、スマートフォン、音楽プレーヤーなどの音の出る機器をすべて机の上に出す。
- ② アラームを解除してから電源を切る。
- ③ 電源を切った後、身に付けずにかばんなどにしまう。
- ④ 時計のアラーム、時報、目覚まし音の設定を解除する。

2 机の上に置けるもの

○受験票、○写真票、○黒鉛筆、○メモ用のシャープペンシル、○消しゴム、○鉛筆削り、○時計、○眼鏡、○ハンカチ、○ティッシュペーパー(袋から取り出したもの)、○目薬

これら以外は、かばんなどにしまいなさい。

解答用紙の受験番号・解答科目等の正しい記入例

(試験場コード 200011, 受験番号 1120C の駒場次郎が「数学 I・数学 A」を選択解答する場合)

マーク例

良い例	悪い例
●	○ ⊗ ⊙

① 受験番号を記入し、その下のマーク欄にマークしなさい。

③

- ・ 1科目だけマークしなさい。
- ・ 解答科目欄が無マーク又は複数マークの場合は、0点となります。

解答科目欄	
数 学 I ○	数 学 A ●

解答科目 チェック欄
✓

受験番号欄				
千位	百位	十位	一位	英字
1	1	2	0	C
●	○	○	●	(A)
○	●	○	○	(B)
○	○	●	○	(C)
○	○	○	○	(H)
○	○	○	○	(K)
○	○	○	○	(M)
○	○	○	○	(R)
○	○	○	○	(U)
○	○	○	○	(X)
○	○	○	○	(Y)
-	-	-	-	(Z)

受験番号マーク チェック欄
✓

(解答欄略)

② 氏名・フリガナ, 試験場コードを記入しなさい。

フリガナ	コマバ ジロウ					
氏名	駒場次郎					
試験場 コード	十万位	万位	千位	百位	十位	一位
	2	0	0	0	1	1

氏名等 チェック欄
✓

10 試験成績の大学への提供方法

- (1) 大学入試センターは、大学入試センター試験に参加する各大学からの請求に基づき、当該大学の入学志願者の教科・科目の試験成績を、請求した各大学に対して提供します。各大学の教科・科目の指定については、各大学の募集要項等で確認してください。
- (2) 「国語」の特定分野を利用する大学へは、「国語」の成績とは別に出題分野別（「近代以降の文章」「古典（古文，漢文）」）の成績も提供します。
- (3) 「地理歴史，公民」又は「理科」の試験時間において2科目を受験した場合は、大学からの請求に基づき「第1解答科目，第2解答科目それぞれの得点及びその合計点」又は「第1解答科目の得点」のいずれかを提供します。
 なお、大学が1科目のみの成績を利用する場合には、**第1解答科目の成績を優先して利用すること**がありますので、必ず、志望大学の募集要項等で確認してください。
- (4) 英語の成績については、筆記，リスニングを区別して両方の成績を提供します。
- (5) 大学入試センター試験に参加する各大学の教科・科目の指定と、指定された教科・科目数を超えて受験した場合の大学への成績提供を例示すると、次表のとおりです。

志願者に対する大学の指定	大学入試センターから大学への成績提供
国語，外国語の2教科から1教科選択	当該大学の志願者が国語，外国語を受験していれば，この2教科の成績
「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」「地学Ⅰ」の4科目から1科目選択	当該大学の志願者が第1解答科目として「物理Ⅰ」を，第2解答科目として「化学Ⅰ」を受験していれば，大学からの請求に基づき，この2科目の成績とその合計点，又は第1解答科目の「物理Ⅰ」の成績のいずれか

試験当日の所持品チェック欄	
1 受験票・写真票(写真をはり, 署名する。)	
2 黒鉛筆(H, F, HBに限る。)	
3 プラスチック製の消しゴム	
4 鉛筆削り(電動式・大型のもの・ナイフ類は使用できません。)	
5 時計(辞書や電卓等の機能があるもの, それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものは使用できません。)	
6 受験票に「上履き持参」と表示してある場合は, 上履き・下履きを入れる袋	

■ 大学入試センター試験についての問い合わせ先

- 試験場や追試験の受験申請等について
受験票に記載されている「問い合わせ大学」まで問い合わせてください。
- その他, 試験全般に関する内容について
独立行政法人大学入試センター事業第1課 まで問い合わせてください。
TEL 03-3465-8600 (9:30~17:00)
※ 土・日曜, 祝日及び12月27日~1月6日を除く
- 大学入試センターホームページ
<http://www.dnc.ac.jp/>
「センター試験 Q&A (よくある質問)」や「IC プレーヤーの操作ガイド」などを掲載しています。

モバイルサイトもあります→
<http://www.dnc.ac.jp/i/>

